

松尾 スズキ (1962/12/15~)

渋谷区にある複合文化施設・Bunkamura内の劇場・シアターコクーンのアート監督を務める松尾スズキ。人気劇団「大人計画」の主宰であり、劇作家、演出家、小説家、俳優としても幅広く活躍。

一生懸命生きているけれど、不器用で報われない人々の物語を、悲哀と笑いの筆致で紡ぎ出した作品をご紹介します。



『命、ギガ長ス』

松尾 スズキ／著 白水社 2019

2019年に松尾スズキと安藤玉恵の二人芝居で上演された戯曲。高齢の母とアル中ニート息子の二人暮らしの様相をドキュメンタリー作家志望の女子大生が撮影する…。8050問題をおかしみに満ちたやりとりで描く。



『クワイエットルームにようこそ』

松尾 スズキ／著 文藝春秋 2005

オーバードーズ(薬物の過剰摂取)により精神科病棟に運び込まれたライター佐倉。そこには一筋縄ではいかない患者たちがいて…。生きづらさを抱える患者たちの姿はストレス社会で生きる私たちが投影しているかのようにも思えてくる衝撃の一冊。

「渋谷読書人」は

渋谷に関わる人全てに向け、おすすめ本の情報を発信していく、渋谷区立図書館が発行する定期刊行物です。

渋谷読書人 2023年10月・11月号

発行 / 編集 渋谷区立図書館

株式会社図書館流通センター

発行日 2023年10月

渋谷区立中央図書館

電話 3403-2591

住所 渋谷区神宮前1-4-1



プロの世界



『寝ても覚めてもアザラシ救助隊』

岡崎 雅子／著 実業之日本社 2022

幼いころに出会ったぬいぐるみをきっかけにアザラシ沼へ落ちた著者が、その生態や保護活動について愛情深い言葉で綴った一冊。アザラシの魅力に癒されるとともに、彼らが生きる環境のために何ができるか考えさせられる。



『ガラスの海を渡る舟』

寺地 はるな／著 PHP研究所 2021

祖父のガラス工房を兄妹で継ぐことになった道と羽衣子。その10年間で双方の視点で語られていく。才能を開花させ始める兄と疎外感に焦る妹。長い時間をかけ葛藤を乗り越えていく兄妹の絆を描いている。



『名人』

川端 康成／著 新潮社(新潮文庫) 2004

「不敗の名人」とうたわれた第21世因坊秀哉。その引退基における熾烈を極めた対局の記録と名人の肖像を通じて、著者は「芸道」が「競技」に取って代わられる時代のうつろいを見事に描き出している。



『東京の美しいドボク鑑賞術』

北河 大次郎／著 小野田 滋／著
紅林 章央／著 高柳 誠也／著
エクスナレッジ 2023

東京都内のトンネル、道路、ダム、水門、橋といった土木構造物を対象に、その造形から使われた技術、歴史までをたっぶり堪能するための鑑賞術を紹介する。豊富なカラー写真と充実の解説文で、各構造物の知識を深めることができる。



『鍛冶屋 炎の仕事人』

田中 康弘／著 山と溪谷社 2022

鍛冶屋が造るのは日本刀だけじゃない！ 鎌、のこぎり、包丁…。人々の暮らしに欠かせない道具を生み出す職人たちの仕事と哲学。長年取材を続けてきた著者が綴る、鍛冶屋探訪記。



『トリトリビア』

川上 和人／監修 マツダ ユカ／マンガ
川上 和人 ほか／著
西東社 2018

鳥類学者監修による解説と4コマ漫画で構成された本書。知っているようで意外と知らない身近な鳥たちの秘密をわかりやすく教えてくれる。鳥の研究をしている著者たちの愛情を感じられる一冊。



『日本でいちばん大切にしたい会社 8』

坂本 光司／著 あさ出版 2022

人気シリーズの第8巻。地域社会に貢献し、数々の危機も乗り越えてきた企業の中から、特に顧客や社員から絶大な信頼と感謝を寄せられている会社を紹介。「お天道様に顔向けできる経営」とは？



『ものは言いよう』

ヨシタケ シンスケ／著 MOE編集部／編
白泉社 2019

絵本作家ヨシタケシンスケの原画はなぜ小さいのか？ 実物大写真と共にその理由が明らかに。自身によるイラスト解説やネタ帳・仕事場の公開も。読後にはヨシタケシンスケの初のオリジナル絵本『リングかもしれない』を読みたくなるかもしれない。

気になる新着コーナー



『測る世界史』

ピエロ・マルティン／著 川島 蓮／訳
朝日新聞出版 2023

普段何気なく使っている時間や距離、重さなどの単位は私たちの社会になくてはならないものだが、反面、意外と知らないことも多い。本書では7つの測定単位について歴史という側面に焦点を当て紹介する。



『師匠はつらいよ』

藤井 聡太のいる日常
杉本 昌隆／著 文藝春秋 2023

藤井聡太の師匠である著者が弟子と将棋の喜びをユーモラスに綴ったエッセイ集。師弟関係でありつつも、弟子をまるで子供を心配する親のような目線で見守る様子には心がほっこりする。将棋をあまり知らない人でも気軽に読める一冊。



『考古学者が発掘調査をしていたら、怖い目にあつた話』

大城 道則／著 芝田 幸一郎／著 角道 亮介／著
ポプラ社 2023

生贄のヒツジをさばいたり、墓に閉じ込められて凍死しそうになったり、発掘調査は危険がいっぱい!? 世界をまたにかけると考古学者たちのちょっと怖くて不思議なノンフィクション・エッセイ。



『レンタルなんもしない人の“やっぱり”なんもしなかった話』

レンタルなんもしない人／著 晶文社 2023

SNS上にて「なんもしない依頼」を受けている、レンタルなんもしない人の活動総集編第3弾。著者の元には様々な依頼が舞い込む。その様子から現代社会における数々の人間模様を垣間見ることができる。